

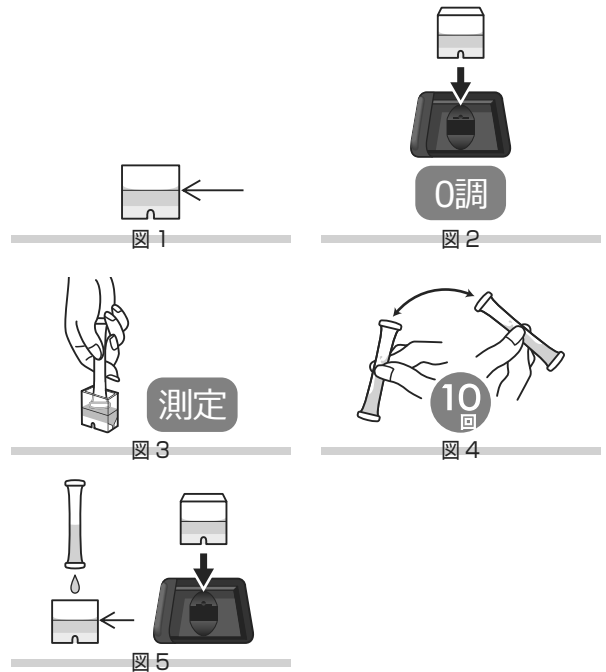
## TH 全硬度

発色：淡紫→紫  
測定原理：フタレインコンプレクソン法  
測定範囲：10～150 mg/L (ppm)  
試薬：WAK-TH チューブ  
測定時間：チューブに吸い込み後 1分

セル：専用カップ  
使用波長：569 nm, 550 nm, 670 nm

### 測定方法

1. 【TH】を押します。
2. 【決定】を押し、測定画面に切替えます。
3. 検水を、専用カップに1.5mL(線まで)採ります。(図1)
4. 専用カップをセルボックスに入れ、【0調】を押します。(図2)
5. パッケージのチューブに、専用カップの検水を全量吸い込み、同時に【測定】を押します。(図3)
6. 5.のチューブを10回程度振り混ぜます。(チューブ内に試薬が残っている場合には、さらによく振り混ぜます。)(図4)
7. 専用カップにチューブ内の測定液を静かに戻し、セルボックスに再びセットし静置します。(図5)
8. 経過1分後に濃度が自動表示されます。



### 注意

1. この方法では、カルシウム硬度:マグネシウム硬度の比率が、2:1～3:1の範囲の検水が測定できます。検量線は、2.5:1を基準として作成しています。
2. カルシウム硬度の比率が高い検水では測定値が高くなり、マグネシウム硬度の比率が高い検水では測定値が低くなります。
3. 検水中の全硬度値が10mg/L未満の場合、発色はしますが、測定値は「Under」と表示されます。
4. 発色時の最適 pHは10です。pHが5～10の範囲をこえる検水は希硫酸化ナトリウム溶液または希硫酸等で中和してから測定してください。
5. 検水の温度は15～30℃で測定してください。

### 共存物質の影響

内蔵の検量線は、標準液を用いて作成しています。他の物質の影響が考えられる場合は、公定法と比較するか、標準液添加法により測定値を確認してください。

右表は、標準液に単一の物質を添加した場合の測定値への影響データです。

海水は測定できません。

海水等を測定した際、多量の濁りが発生し、測定値が得られる場合があります。異常値ですのでご注意ください。

1000mg/L以下は影響しない	…Cl <sup>-</sup> 、K <sup>+</sup> 、Na <sup>+</sup> 、NH <sub>4</sub> <sup>+</sup> 、NO <sub>2</sub> <sup>-</sup> 、NO <sub>3</sub> <sup>-</sup> 、PO <sub>4</sub> <sup>3-</sup> 、SO <sub>4</sub> <sup>2-</sup> 、陰イオン界面活性剤、フェノール	
100mg/L	//	…B <sup>3+</sup> (ほう酸)、F <sup>-</sup> 、I <sup>-</sup> 、シリカ
50mg/L	//	…Ba <sup>2+</sup>
10mg/L	//	…CN <sup>-</sup> 、Mo <sup>6+</sup> (モリブデン酸)、
5mg/L	//	…Al <sup>3+</sup>
1mg/L	//	…Co <sup>2+</sup> 、Cr <sup>6+</sup> (クロム酸)、Ni <sup>2+</sup> 、残留塩素
	少しでも影響する	…Cr <sup>3+</sup> 、Cu <sup>2+</sup> 、Fe <sup>2+</sup> 、Fe <sup>3+</sup> 、Mn <sup>2+</sup> 、Zn <sup>2+</sup>

### 試薬に関するお知らせ

パッケージに付属の使用法をご参照ください。

測定液は約 pH10 です。